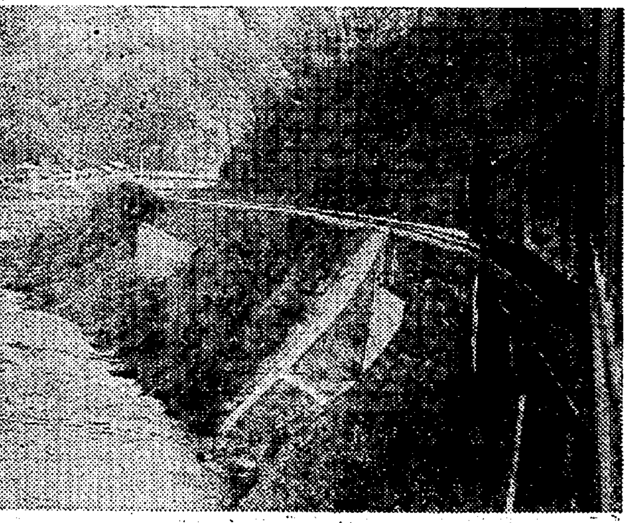
宮古の初荷は海の幸

きょう処女列車に満載



山田線はいよいよきょう二十一日全線開通する。開通の日を前に十九日夜は風雨注意報が出て心配されたが、二十日にはカラリと晴れ上がり、宮古測候所の予報では二十一日も晴れで開通祝賀にふさわしい日和だろうとのこと。宮古市内の商店街という商店街は雨上がりの二十日一斉に軒先を万国旗でつらね、まん幕を張り祝いのチョウチンをつけるなど、市街の飾付けを行い、祝賀に備えた。盛岡と結ばれた喜びにわく宮古からは処女列車の初荷として小口扱いの貨物や小荷物で贈答用の魚が積込まれ、貨物として内陸地方のお百姓さん向けの魚カス肥料が積出されるほか宮古をはじめ沿線の川井、箱石、川内の三駅からは盛岡に贈る木炭がドッと積出され、また川井駅からは川井村特産の短角牛が初荷として積出されるなど、きょう二十一日からは山田線の全通によって海山の幸が盛岡をはじめ、内陸地へどんどん送り出される。（写真は晴れて全通式を迎えた山田線）

山田線駅長異動 盛鉄管理局では二十一日付人事異動をつぎのとおり発令した。（カッコ内は旧任）

▽川内駅長佐々木宮三郎（営業部総務課）▽箱石駅長中市一（営業部総務課）▽陸中川井駅長田中館利三（営業部総務課）▽川内駅予備助役高橋義勝（剣吉駅予務兼予助）▽箱石予備助役沼尻清雄（沼宮内駅予備助役）▽陸中川井駅予備助役伊藤惣三（腹帯駅助役）

国分県政に冷い赤字

農業試験機関も身売り

南部邸の文化舘危し

国分県政が発足してすでに八年―農民の圧倒的支持にのって生れ出たこの民選知事の第一人者は、農民の声を『ようがス』と気やすく取入れて各地に農業試験研究機関をつくり上げ、支持者の期待にこたえてきたが、反面財政的には五億七千万円に上る赤字を生じ、県会討議の上では身動きできない窮地に追い込まれた。かくて明春の改選を前に任期切れのいまとなって、これら試験研究機関を大幅に廃止、または地元に身売りするという行政機構の整備が取上げられ、民選国分知事の足跡には複雑なものがあるが、この整理がまた改選を前に残された国分知事の大事業として県民の注視をあびることになった。国分知事によって誕生し、そしてまた国分知事の手によって消え去ろうとしているこれら機関の主なものをひろってみよう。

赤字財政脱却のきめ手として行政機構の簡素化にのり出している県は去る十八日の機構整備審議会で整備すべき試験機関など十一ヵ所を発表したが、このうち南部試験地（米崎）高冷地試験地（奥中山）ブドウ試験地（大迫）浄法寺農場、工芸作物原種農場（栗石）農村工業指導所（古館）種山牧野事務所、薬草園（北上）林業試験場（六原）淡水魚指導所（赤石、北上、青笹の三ヵ所）産業文化館（旧南部別館＝盛岡）の十一件はすでに国分知事によってつくり上げられたものである。

これらのなかには二十八年に取上げた産業文化館（南部利英氏との間に十年間の貸貸契約が結ばれ、県は月六万六千円、年七十九万二千円を支払って、南部家の宝物を県民に開放している）をはじめ、高冷地の農法研究で全国的にも大きな成果を上げている高冷地試験地、さらに国分知事が選挙に際しての公約であった大迫のブドウ試験地などその業績が大きかっただけに身売りまたは廃止されるいまとなって県民の感慨も一しおである。

県はこの整備によって年間三千八百万円の経費をうみ出すといい、赤字財政の上に身動きできない国分知事最後の再建切り札となったわけだが、これに対し農民団体をはじめとする各関係者からは早くも猛烈な反対が燃え広がり、老知事の顔をいよいよ暗くしている。

『貧乏人が余り大きな仕事をやりすぎたんだ』という老知事の顔にこのところ何かしらさびしさがあるようだ。

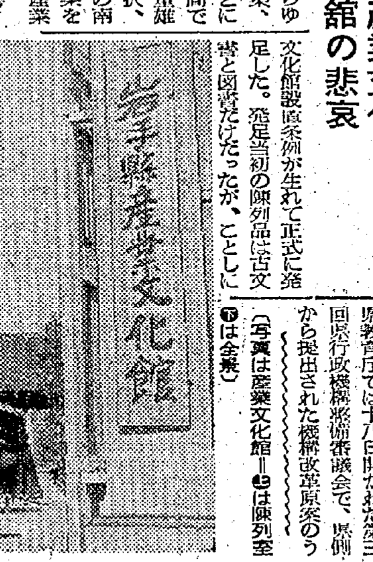
発足僅か一年

産業文化舘の悲哀

昨年の九月中央に流れてゆく県の重要文化財を守ろうという目的で生れた県産業文化館は、全国でも唯一の県立施設というのでその成育が注目されていたときだけに、その廃止の報は関係方面をあわてさせている。この産業文化館は岩手県の文化の発展と産業の開発振興にかげの力とするために古来の芸術、歴史、自然科学などあらゆる資料、器具、機械などを収集、展示して一般の教養、調査などに資そうと二十七年六月有志の間で建設促進連盟（代表者鈴木重雄氏）が結成され、県議会も採択、翌二十八年四月盛岡市下小路の南部邸を借受けて五月から事業を開始、同年九月には県議会で産業文化館設置条例が生れて正式に発足した。発足当初の陳列品は古文書と図書だけだったが、ことしに入って教化、信仰、生活、生産などに関する民俗資料など多数が陳列され、また各方面から貴重な考古品などを貸してくれる人もふえ、七十五点の寄託品がある。

一方旧南部藩の研究や資料の収集保存も同館の大きな事業として進められ、郷土史の博物館的な存在としてようやく県民の認識を集めてきたとき、発足一年そこそこにして廃止の運命をたどろうとしていることは郷土史に関心をもつ多くの人々を悲しませている。

同館畑山一男氏の話　これから民俗品や動植物の標本、発電用、砂防用のダムの模型などを陳列し、さらに充実しようと思っていた矢先だけにがっかりしました。今まで折角集めた貴重な資料が散ってしまい、再び集まらぬと思うとたえられぬ悲しみを覚えます。



（写真は産業文化館＝㊤は陳列室　㊦は全景）

高校施設に振替え

廃止の蚕業試験場など

県教育庁では十八日開かれた第三回県行政機構整備審議会で、県側から提出された機構改革原案のうち、一戸蚕業試験場、薬草園および村崎野淡水漁業試験場の全面的廃止は学校教育の面に重大な支障をきたすものとして反対を表明、今後の運営方法について十九日山中教育長は次のとおり語った。

一戸蚕業試験場の施設は全部一戸高校の農芸科に移して利用させ、また薬草園および淡水漁業試験場には現在の北上農業高校を移転させ、実習地とする。

不利益処分でない

公平委　岩教組審査を却下

岩教組は各地教委が昇給ストップ条例をタテに昇給を拒否したことは一方的な不利益処分であるとして、各所属の市町村公平委員会に対し、県下八百六十校の教員約六千名の審査請求書を提出し、全国初のケースとして注目されていたが、二十日同審査に対する却下第一号の通知が和賀郡小山田村公平委員会＝委員長宮原直三氏＝から出され、ストップ条例撤回には行政訴訟も辞さないという岩教組の今後の行き方が注目されている。

和賀郡小山田村公平委員会ではさる十月二十九日付で小山田小中校の教員から提示された不利益処分の審査請求書について検討を加えた結果❶臨時特例の成立状態ならびに有効、無効に関しては本委員会はなんら判定すべき権能を有していない❷臨時特例の適用についてはこの条項に該当する職員のうち各条項に該当する職員は当然適用される段階にあり、特別の考慮により除外、または適用の可否について判断すべき余地はなく、従って任命権者の意思によるものでないことは明白である、として不利益処分には該当しない旨の回答を行った。

岩教組小川副委員長談　組合としては公平委員会が受理するか却下するかを調査する場合に形式的書類の整備と処分内容が存在するかどうかで決定すべきものであるのに、小山田村公平委の却下理由書をみると、不服理由の審査を行って判定した感じがする。

来月廿日頃に提訴

県職組　中央の弁護士委嘱

昇給ストップ条例の撤回を目指して裁判所への提訴態勢を固めている県職組は、現在裁判費用の資金カンパと中央からの主任弁護士森三樹二氏、副主任山中日露史氏らを正式に頼んだが、山中副主任弁護士は二十日来県、組合側と訴訟についての打合せをするとともに柴田代議士の案内で斎藤副知事、県人事委など関係当局を回り、事情を聞いた。

組合側としては提訴の時期を十二月県議会終了の十二月二十日前後とし、それまでに共通目標に向って運動している岩教組、高教組、医療組と連絡をとり、共闘にのり出しているので、年末闘争とからんで早くも注目を浴びてきた。

山中副主任弁護士はこれについて次のように語った。

ストップ条例によると昇給昇格の辞令は出るが、実際には増給しないということになっている。俸給は職員の職務と責任に対して支給されるもので、実際に増給を伴わない昇給は不合理である。県人事委の勧告もこの点を指摘しており、県が人事委の勧告を尊重しなければならないのはもとより、県議会がこの条例を可決したのは無効だと思う。

チャグチャグ

馬っこ宮古へ

沿岸民待望の山田線復旧全通を記謝使節を送ることになり、祝賀行事にわく二十三日（勤労感謝の日）全国的に有名な南部の祭り『チャグチャグ馬っこ行列』を宮古市内にくり出し、内陸部民の祝意を伝える。このチャグチャグ馬っこ行列は本社が特に伝統由緒ある代表的な馬の衣しょうを盛岡、岩手、紫波の三郡市から選び、馬への装束には長年チャグチャグ馬っこを手がけてきた人々が出張して当ることになっているが、衣しょうはいずれも十数万円かけられた豪華なもの。

二十三日は早朝から宮古市八幡神社において二十数頭の馬に装束し午前九時、岩手日報ニュース・カーを先頭に沿岸部でははじめての古式ゆたかな、またけんらん豪華なチャグチャグ馬っこ行列を宮古

行列コースは次のとおり。

八幡神社―地方病院―末広町―向町―宮古橋―藤原―光岸地―切通し―鍬ヶ崎一丁目―鍬ヶ崎三丁目―磯鶏―磯鶏松原―藤原―宮古橋―新川町―市役所―水上署前―海岸通り―光岸地―下町―空二幹線。

農協事務競

技に第三位

全国農協事務競技会に出場した本

と二十日農協中央会に連絡があった。これは十九日東京農林中金本店で全国代表二百名が集まって珠算と簿記の部に分れて競技会が行われたもの。本県代表は簿記の部及川道男（江刺藤里農協）小野寺薫（胆沢古城農協）珠算の部石川克子（西磐井端栄農協）佐藤栄子（同）の四名が参加し、ことに珠算の部では佐藤栄子さんが第三位、石川克子さんは第六位に入賞という輝やかしい成績をおさめた。

モチ米を三日分

消費者待望のお正月用のモチ米本県分として三日分六千八百三十石が配給されるとこのほど食糧庁から県に通達があった。ただしこれは一月分の配給を十二月下旬に先渡しするもので、一月分の内地米配給は三日間差引かれるというわけ。

なお県はモチ米の集荷を十二月十日までの早場米奨励金期限までに終り、モチ米加算金一俵四百八十円（精米）を獲得させるよう馬力をかける事になった。

海獣漁協組

大槌町に誕生

オットセイ解禁に備えて全国の突ン棒業者を網らした全国海獣漁業協同組合が結成され、その創立総会が二十日午前十一時から上閉伊郡大槌町赤浜海岸の赤浜小学校で鈴木善幸代議士をはじめ千葉、福島、宮城、岩手の各県から九十名の業者代表者が集まって開き、理事二十二名を選出し、組合長には大槌の川口鶴松氏、専務に浜田清右衛門氏を選任した。

夜は〝文化祭〟

東北婦人大会

東北各県の婦人が一堂に集まって婦人問題について話合う東北婦人大会は全農林青年婦人部、東北マッチ、日赤、経済連、殖銀などの労組婦人部のほか青森三十名、秋田十三名、宮城、福島各十名、山形一名の各県代表が参加して二十二十一の両日盛岡市で開かれているが、第一日目の二十日は午前九時から県教育会館で約三百名が出席して開会、各県から一名の議長団を選出、午後からは分科会に入り❶婦人と平和について❷婦人の生活と子供の幸福について❸農村の生活について、それぞれ熱心な討議が行われた。夜は六時半から文化祭で斉唱指導、コーラス、各県のお国自慢の踊りなどレクリエーションに興じた。

なお第二日目の二十一日は午前十時から町村会館ホールで開く

催しと会のメモ

21日

【盛岡】一関―盛岡間駅伝競走（前8時一関駅前スタート、本社前到着予定後2時）▽DF歌のプレゼント公開録音（前10時、後2時、公会堂）

【宮古】山田線開通祝賀式（前11時半、宮商体育館）▽水産展覧会（宮古水産）▽林業普及展（3日間宮古小）▽畜産共進会（山口小）▽農産品評会（宮古小）▽陸中海岸撮影コンクール作品展（同）▽宮古文化展（同）▽県内余興芸能コンクール（宮古市内各広場）▽平津戸―宮古間駅伝競走

紙風船

◇…大船渡市土建業下田源五郎さんはさる八月中旬大船渡―盛間市内バス（東部）で世田米町までのバス賃百円を見ず知らずの人から借りたが、その金を貸した人がいまだに現われず何とかして返したいものだがと探している。

◇…大船渡土木事務所世田米出張所に工事費の下付証明書を受取りに行くため下田さんはその日あわてて市内バスに乗ったが、財布を忘れているのに気付き、知った人がいるならと見渡したがあいにくなし、困っていたところかたわらに乗っていた六十五、六歳、多少お酒を召していた老人が百円札一枚を貸してくれたという。

◇…このご老人は盛町で下車、下田さんは県南バス水沢行きに乗換えて世田米町に向ったが、〝必ず返します。この顔を覚えていて下さい〟と念をおしたのにこのご老人からはなんの話もないという。

駅伝の勢ぞろい

一関で開会式

今シーズンの掉尾を飾る陸上競技の花、県陸協、県競技及び本社主催の第十三回一関―盛岡間駅伝競走大会の開会式は二十日快晴に恵まれて午後四時から一関駅前で一般、商校合わせて四十六チームの精鋭を集め、盛大に行われた。

式はまず鈴木会長（後藤本社事業課長代理）のあいさつ、松川一関市長の祝辞（福野市教育委員長代読）寺沢審判長から競技上の注意あって、前年度優勝の一般土沢青年及び商校土沢商校の両チームから優勝杯を返還、最後に選手団を代表して土沢チーム林貞三選手から『正々堂々と戦わん』との宣誓があり開会式の幕を閉じた。かくて今二十一日午前八時一関駅前を一斉にスタート、初冬の北上平野を一挙に盛岡まで北上、健脚を競うことになった。

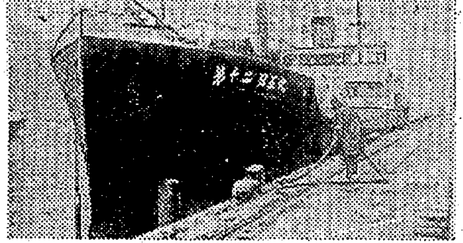
（写真は全選手そろっての開会式）

大連の土産話

釜石に日正丸

中国に対する関心が高まっているとき、日正汽船株式会社（本社東京）所属の貨物船第十二日正丸＝一、九一五トン、船長谷口政一氏（四五）以下二十八名乗組＝が大連から釜鉄向けのマグネシヤクリンカー鉱五百トンを積んで十九日午前三時入港、同日午後四時釜鉄専用北桟橋に接岸した。同船の事務長早川繁太氏（四七）は大連の近況を次のように語った。

大連に入港したら国営の海員公会（日本の海員組合）から部長と副部長が敬意を表しに来船したので門司で買って行った高さ一尺二寸位の藤娘の博多人形を贈ったら大変喜び、歓迎会をするから全員上陸してくれと招待を受けた。市内の公園や船員家族の託児所、病院、デパートなどを案内されたが、町はチリ一つない清潔なものだった。託児所の施設もすばらしく収容児は四―五歳までの者で、金は一ヵ月千円という安さだ。また公園には無料ステージがあってだれでも気軽にダンスが出来るようになっている。デパートで日本婦人と男子店員一名ずつを目撃した。陳列されている商品の中には日本製品がみられなかった。町を歩いている人は男も女も皆紺色の制服で化粧している女性は見えない。



（写真は入港した第十二日正丸）

ジャージーバターを献上

県はことしも本県の特産物を天皇皇后両陛下、皇太子殿下、ならびに秩父宮、高松宮、三笠宮の三家に献上する。ことしは例年のようにリンゴだけでなく、とくに昨年秋導入されたジャージー牛の乳で精製したジャージーバター一ダースを献上することになり、森永乳業盛岡工場に精製を依頼している。

このジャージーバターは一ポンドの普通バターをつくるのに牛乳七升を要するのにくらべ、約四升程度で間に合うほど脂肪分が多いといわれ、また脂肪分その他栄養価においても数段すぐれているという、本県自慢のもの。十二月早々国分県知事が献上することになっている。

犯罪防止協力の表彰

一部既報、東北管区警察局では十九日同局長室で警察に協力、犯罪防止に実績をあげた管内六団体、および六団員に表彰状と金一封を贈った。本県の表彰団体、団員次のとおり。

▽団体の部＝岩手県岩谷堂警察署管内稲瀬村防犯組合▽団員の部＝岩手県釜石警察署管内唐丹村自警会長佐藤蔵雄。

梅沢選手を派遣

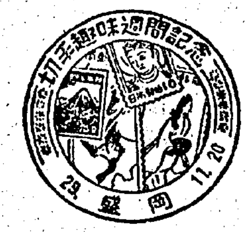
サン・シルベストレ大会

陸連は十九日ブラジル・サン・シルベストレ大会の派遣代表を梅沢一美（立教大）と決定発表した。梅沢選手は神奈川県出身、昭和七年四月生れ、立教大学文学部四年

明春卒業とともに旭化成本社に入社の予定。

切手趣味週間記念

ことしの切手趣味週間は二十日から一週間にわたり、全日本郵趣連盟主催の行事で全国一斉に展開されるが、郵政省ではこれを記念し二十日から一週間盛岡郵便局等で記念スタンプを使用することになった（図は趣味週間スタンプ）



新築中の建物から出火

十九日夜九時二十五分ごろ一関市広街に新築工事中の一関電々公社二階工場が燃えているのを通行人が発見すぐ隣の消防署に届出た。直ちに消防署では消火作業に当り床板二坪を焼いたのみで消し止めた。損害十万円。

半分・41万枚をさばく

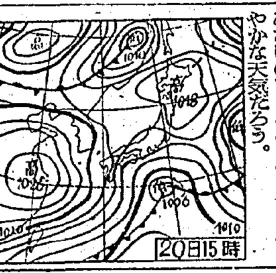
豪勢な年賀はがき

さる十五日から発売されたお年玉付年賀ハガキは早くも二十日現在で盛岡郵便局の取扱分は四十一万一千枚をさばき、同局責任割当七十六万二千枚に対し五三%、前年度同期の二〇%からみてもはるかに上回るという極めて好調な売行きをみせている。この分だと明春一月十日までの発売期限をまたずに本月一ぱい遅くとも十二月五日ごろまでには全部売切れるのではないかと同局でホクホク顔。

買物中盗難　盛岡市八幡町七一大石方女中田口ミヤさん（二七）は二十日午後一時三十分ごろ市内肴町川徳デパートで買物中、手さげカゴの中から現金七千九百円在中の財布をすられたと盛岡署へ。

天気予報

【概況】北海道に高気圧があって南へ張出しているので当地より以北はおだやかな良い天気となっている。シベリアから寒気が下りてこないので、ここしばらくはおだやかな天気だろう。



【内陸】二十一日は南西の風、南部は雲が多いが北部は晴れ時々曇り。二十二日は西の風晴れ時々曇り。

【沿岸】二十一日は南西の風、晴れ後曇り、夜は一時小雨。二十二日は西の風晴れ。

【海上】二十一日は南西の風おだやか、一時風波がある。二十二日は西の風、多少風波あり。

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。